

＼ 患者さまとご家族に安心と信頼をお届けするマガジン ／

# はつらつ通信

2018.9.1 September vol.150

発行：医療法人北志会 札幌ライラック病院 編集：はつらつ通信局



## 個性華やか、2年間の集大成



### フラワーアレンジメント作品が完成しました

当院のデイケアでは、ご利用者さまが意欲的に取り組めるようレクリエーションの時間に複数の活動を用意しています。特に、書道とフラワーアレンジメントは継続して楽しめる方が多く、月に1、2回ボランティアの講師の方の指導を受けながら活動を続けています。

7月25日(水)には、約2年間アレンジメントフラワーに参加された方々が、前の週にご自身で選んだ花と花器を用いて自由にアレンジした作品を完成させました。講師を務める阿部多美子さんは20年以上のアレンジメント経験のもと皆さんの意欲と個性を上手に引き出し、「笑顔が増えたり、背筋が伸びたり。お孫さんの結婚式に作品を飾った方もいらして、お花が自信やいきがいになっているのがうれしいです」と、指導の集大成ともなる皆さんの作品に感無量です。最後に全作品を全員で鑑賞。「あなたの作品とっても素敵!」「この花器が利いてるわね」など感想を述べ合い、1点限りの力作を大切に抱えて帰宅されました。



医療法人 北志会  
札幌ライラック病院



# 病棟紹介 PART 4 2B病棟

入退院が多く、患者さまも多様

病院治療と在宅をつなぐ幅広いケア  
人工呼吸器装着の方から、寝たきり、認知症の方まで  
多様なニーズに応えるためチームでケアの質を向上

病棟紹介の最終回となる今号で取り上げるのは2階の2B病棟です。他病棟に比べ、毎月の入院退院が多いのが大きな特徴となっています。また2A病棟同様、2B病棟も48床中33名と人工呼吸器装着の患者さまが多数以上を占めます。八木泉代師長に話を聞きました。



2B病棟の八木師長



2B病棟のナースステーション

## ご自宅や施設へ戻るリハビリのための入院

2B病棟では看護師26名・介護員13名がケアにあたっています。「入退院でよく見られるケースは、急性期病院で入院中にADL(日

常生活動作)が低下してしまった患者さまの転院ですね」と八木師長。入院中に衰えてしまった歩く力や車いすで動く力を、自宅や施設に戻る前に、元のレベルに回復するリハビリを当院で行うのが転院の目的です。当院の外来やデイケアを利用していただく方が、急性期病院と在宅をつなぐ中間の施設として当院を選ぶことも少なくありません。

「動きの多い認知症の方の入院もあり、求められるケアの幅は広いですね」と八木師長。点滴の管を抜く、転ぶといった危険の防止には見守りを強化することになります。対応によっては落ち着きがなくならない方もいらっしゃる、専門的なコミュニケーション技術が求められます。



整形外科から転院され、自宅に戻る前に当院で歩行訓練



患者さまの食事の状態を見る言語聴覚士

## コミュニケーションと食事にケアの工夫

「2Bは寝たきりの方でもコミュニケーションの取れる患者さまが多いです」と八木師長。定期的に行われる病棟内研修では、コミュニケーション技術を学ぶ機会もつくっています。

この研修は、コミュニケーション技術のほかにも、褥瘡やポジショニングなどのさまざまな最新知識を吸収する場になっています。7月は外部から講師を招き効果的なおもむきのあて方を学びました。□から食事ができる患者さまが多いのも2B病棟の特徴のひとつ。昼食時は食事介助にマンパワー



7月の病棟内研修のテーマはおむつの効果的なあて方



時間差をつけて配膳される昼食

が集中するため、栄養士の協力を得て一部の配膳時間を早めてもらい、介助の人員を効率的に配置することで患者さまに滞りなく食事していただけるようにしています。

## 多様な専門職と連携し幅の広いケアを提供

ケアの幅が広い2B病棟では、栄養科をはじめ他部門の専門職との連携でケアの質を高めています。肺炎の治療で絶食されていた患者さまの食事再開にあたっては、献立を考える管理栄養士や、摂食や嚥下のリハビリを行う言語聴覚士と相談。食事内容を少しずつ変えながら機能回復をめざしました。



リハビリ室で人工呼吸器装着の患者さまがリハビリ中



2B病棟には広い壁が多く、「びょういんあーとぶろじゅくと」の作品を多数展示

## 医療法人北志会

### 基本理念

私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、よりよい医療サービス実践のため日々研鑽します。

### 基本方針

- 一. 患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 二. 専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 三. 職員は、責任と誇りをもち、日々学習し、専門職としての使命を果たします。
- 四. 職種・職域を超えたチーム医療を目指します。

## 札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。



時間をかけて全職員にBLS（一次救命処置）講習

いざというとき、すぐ動けるように



今年2月から  
毎月講習を実施

BLS (Basic Life Support) は、心肺や呼吸の停止に対する一次救命処置のことで、心臓マッサージやAEDなどその場で速やかに行える処置のことを指します。急に倒れた人の救命率向上には迅速で質の高いBLSが欠かせません。



「AEDがどこに備えられているか、日ごろから注意しておくのが大切」と講師役の川科長がアドバイス

人工呼吸器装着の患者さまの多い当院では、いざという時すぐ対応できるように、昨年全職員にBLS研修を実施。さらに、手技を確実に身につけるために、今年2月からは毎月

継続した講習のため  
購入した  
練習用人形



心臓マッサージの練習。リズムカルに力強く圧迫するのがコツ

1回小グループでの講習を行っています。  
きっかけは川美千代リハビリテーション科長の働きかけ。外部研修の受講を機にBLSインストラクターコースを修了し、道内各地の研修に指導側として同行している立場から、病院職員は全員BLSの基礎知識と手技を身につけておくべきと提案し、実現しました。



AEDを実際に使って練習。  
わいわいと楽しく技術習得

初心者も経験者も  
救命の基礎を確認

2月初回のリハビリ職員にはじまり、毎月各病棟の職員から5名ほどが研修に出席。練習用人形を用いて心臓マッサージとAEDを実践的に学んでいます。看護師と違い、介護員には心臓マッサージが初めてという職員も多く、胸骨圧迫に想像以上の力が必要なことを実感したといいます。  
年明け1月の医事課職員で全部門を一巡。2月からまたリハビリ科に戻り、出席していない職員を対象に二巡目の講習を行う予定です。

札幌ライラック病院は、  
機能強化型 在宅療養支援病院です。

機能強化型在宅療養支援病院とは、  
下記の要件を満たした病院です。

- ・3名以上の医師が在宅訪問診療に配置
- ・緊急での往診実績が年間10件以上
- ・看取り実績が年間4件以上



日本医療機能評価機構  
認定第 JC1927 号

送迎付き 企業健康診断

当院では、企業が定期健診や雇用時健診に利用しやすいよう、一般の健診とは別体系の料金を設定しています。  
無料送迎にも応じますので、医事課までお気軽にご相談ください。

例) 基本健診(聴力・視力・尿・貧血・脂質・血糖・肝機能・  
胸部X線の各検査、身体測定、問診)

企業料金 4,000円



医療法人 北志会

札幌ライラック病院

〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号

☎011-812-8822

診療時間  
【平日】9:00~12:30  
13:30~17:00  
【土曜】9:00~12:00

面会時間  
【平日】14:00~20:00  
【土日祝】12:00~20:00

URL <http://www.lilac.or.jp>



「はつらつ通信」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

TEL:011-812-8822 E-mail:ooba-h@lilac.or.jp (編集委員:大場・佐藤)